

# 琉球大学学術リポジトリ

ヤエヤマサソリ *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775) の座間味島(中琉球)からの記録

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学資料館 (風樹館) 公開日: 2021-06-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 河合, 上総, Kawai, Kazusa メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/48565">http://hdl.handle.net/20.500.12000/48565</a>

ヤエヤマサソリ *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775) の座間味島 (中琉球) からの記録

河合上総

〒500-8185 岐阜県岐阜市元町 4-7 日本蠍研究所

E-mail: [kawai.k.scorpion@gmail.com](mailto:kawai.k.scorpion@gmail.com)

**要旨**．ヤエヤマサソリ *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775) を中琉球に属する座間味島より記録したので、ここに報告する．本種のこれまでの確実な国内分布は南琉球のみであったが、今回中琉球での生息を確認した．今回採取したのは生体 1 個体と脱皮殻 1 個体で、双方共メスであった．

## はじめに

九州南方から台湾にかけて弧状に連なる島列を琉球弧という．これは、水深 1000m を超えるトカラ海峡とケラマ海裂により、北から順に北琉球、中琉球、南琉球と 3 分割されている (小西 1965; 木崎 1985)．ケラマ海裂による境界をケラマギャップ又は蜂須賀線と言ひ、生物相が若干異なる (山階 1955)．

ヤエヤマサソリ *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775) は Hormuridae Laurie, 1896 に属するサソリで、日本以外にインド、スリランカ、バングラデシュ、タイ、ベトナム、マレーシア、中国、韓国、フィリピン、マリアナ諸島、インドネシア、オーストラリア、パプアニューギニア、ソロモン諸島、バヌアツ、ニューカレドニア、ツバル、フィジー、トンガ、フランス領ポ

表1. 日本国内におけるヤエヤマサソリの分布と初報告文献.

Table 1. Distribution of *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775) in Japan and first records.

島名 Island	文献 Reference
中琉球	
座間味島 Zamami-jima Island	本報告
南琉球	
宮古島 Miyako-jima Island	下謝名 (1972)
伊良部島 Irabu-jima Island	河合 (2020a)
下地島(宮古島市) Shimoji-shima Island	河合 (2020a)
多良間島 Tarama-jima Island	下謝名 (1999)
石垣島 Ishigaki-jima Island	下謝名 (1972)
西表島 Iriomote-jima Island	高島 (1942)
小浜島 Kohama-jima Island	千木良・田中 (2004)
竹富島 Taketomi-jima Island	田中 (2012)
波照間島 Hateruma-jima Island	河合 (2020b)
黒島 Kuro-shima Island	唐沢・川添 (2005)
与那国島 Yonaguni-jima Island	河合 (2020a)

リネシアなどに分布する (Koch 1977; Fet et. al. 2000; Kovařík et. al., 2018)．日本国内ではこれまでに南琉球のほぼ全域に渡る与那国島、西表島、波照間島、小浜島、黒島、竹富島、石垣島、多良間島、伊良部島、下地島、来間島、宮古島の計 12 島から記録がある (下謝名 1972; 河合 2020a, b; Kawai 2021; 高島 1942; 千木良・田中 2004; 田中 2012; 唐沢・川添 2005) (表 1)．但し 2004 年に座間味島から座間味島在住の中村恵太氏が本種 5 個体を採取したが、当時専門家による同定がなされなかったのに加え、標本の所在が不明であり、その正確な種同定はなされていなかった．また、その後同島からの発見もなく、これまで本種に関するあらゆる文献で扱われていなかった (河合 2020a, b; Kawai 2021)．

2020 年 8 月に中村恵太氏案内のもと調査した結果として得られた生体 1 個体と脱皮殻約 10 個体分をここに記録する．

## 結果

**確認個体**．生体 ♀ (図 1-5)、体長：25mm、採取地点：沖縄県座間味村座間味島字阿真拝所付近、標高：23m、採取日：2020 年 8 月 12 日、採集者：河合上総、保管場所：日本蠍研究所 No.00148 (現在飼育中．死亡後に標本にする予定)、環境：倒木樹皮下．

脱皮殻 ♀ (図 6)、体長：約 22mm、採取地点：沖縄県座間味村座間味島字阿真拝所付近、標高：23m、採取日：2020 年 8 月 12 日、採集者：河合上総、保管場所：琉球大学博物館風樹館 RUMF-ZA-01067、環境：針葉樹皮下．

**備考**．2020 年 8 月 12 日に、2004 年に座間味島でヤエヤマサソリを目撃した中村恵太氏によると、彼が 5 個体を採取した場所は山岳の拝所付近で自然度が高く (図 8)、港から約 270m の地点 (但し座間味港が出来る前は海岸まで約 250m) である．同所で 2020 年 8 月 12 日に 4 時間ほど探索すると、生体 1 個体と、破損して種同定は難しい個体を含む本種の可能性がある脱皮殻約 10 個体分を確認した．そのうち、生体及び破損のない脱皮殻 1 個体分を採集し観察すると (図 1-6)、生体の体長は 25mm、脱皮殻は約

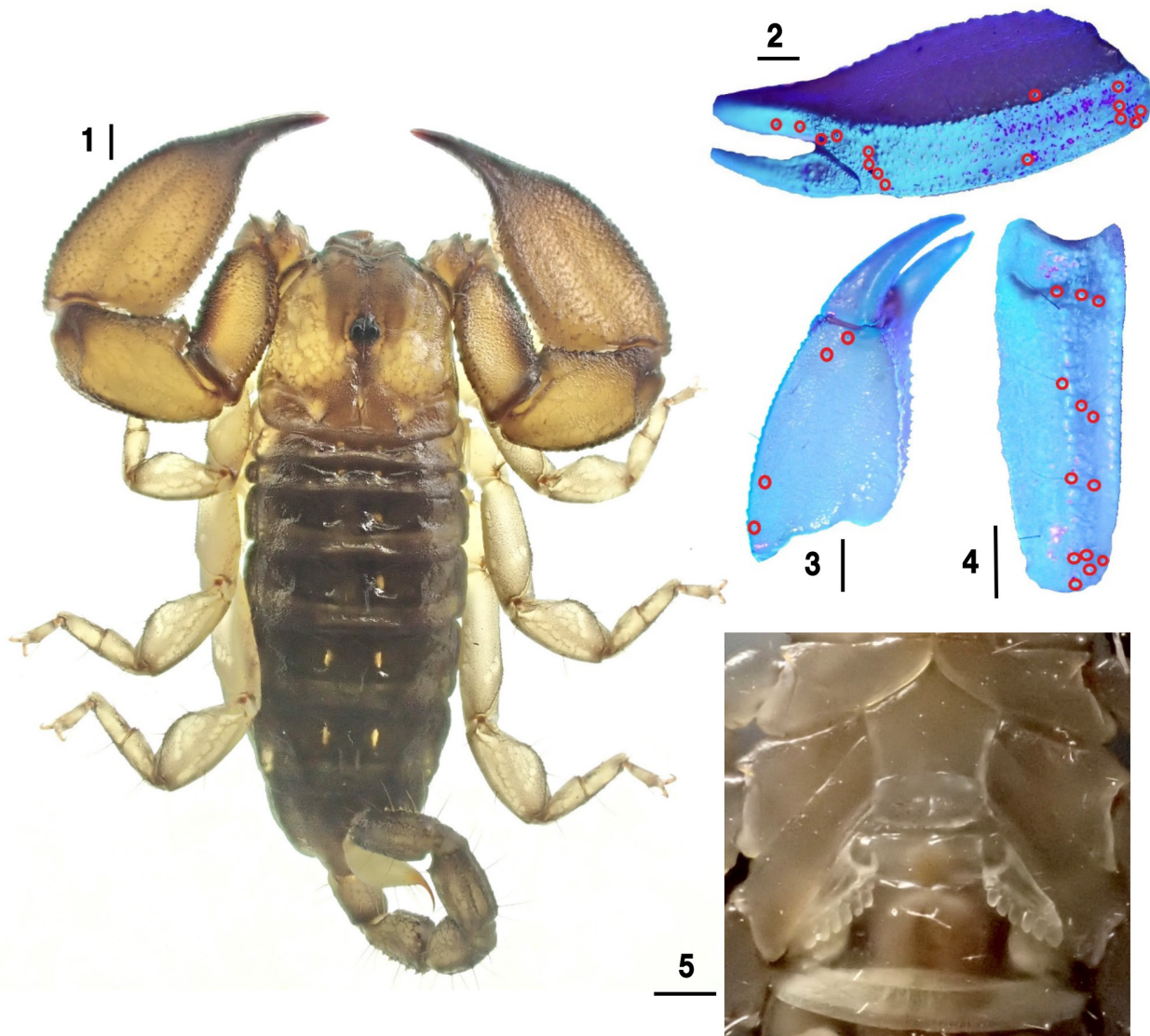


図 1-5. 座間味島から得られたヤエヤマサソリ生体 . 日本蠍研究所 No.00148. 1, 全体 . 2-4, 紫外線照射写真 . 2, 鋏, 外側 ; 3, 鋏, 裏側 ; 4, 触肢膝節, 外側 . 5, 胸板, 生殖口蓋, 櫛状板 . 赤丸, 触毛孔 . スケールバー = 1mm.  
 Figs. 1-5. Live specimen of *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775) from Zamami-jima Island. The Japan Scorpion Laboratory No.00148. 1, 5, live specimen; 2-4, ultraviolet photographs. 1, entire animal; 2, left chela external aspect; 3, left chela, ventral aspect; 4, left patella, external aspect; 5, sternum, genital operculum and pectines. Red circles, trichobothria. Scale bars = 1 mm.

22mm と小型で, 体は扁平, 後腹部が細長い . 鋏は扁平で幅広く, 触肢膝節に突出している部分がある . 櫛状板歯は円筒形で太短く, 頭胸部及び前腹部の大きさが後腹部の大きさより大きい . これらは下謝名 (2015) によるヤエヤマサソリの特徴と一致する . また, Di et. al. (2013) を参照し生体及び脱皮殻両方の触毛孔配列を確認したところ, 両者共ヤエヤマサソリと同定された (図 1-5). 発見時体色が一般的な個体よりやや薄かったが, 飼育するにつれ体色は一般的なヤエヤマサソリに近くなっていった . Hormuridae の性的二形として, Monod & Volschenk (2004) は, 生殖口蓋が左右に分かれているのがオスであり, メスでは生殖口蓋が割れないとしている .

今回得られた生体及び脱皮殻はどちらも生殖口蓋が割れていないため, メスであることが分かった (図 5). なお, 本種はメスのみで単為生殖が可能である (Yamazaki & Makioka 2005).

これまで国内のヤエヤマサソリの確実な分布情報は南琉球に限られていたが, 中琉球の座間味島にも生息していることを改めて確認した . 今回の座間味島での産地の他, 明瞭な産地情報が分かっている 8 島の採取地点と最も近い海岸までの距離を比較した (表 2). 南琉球では海岸から数 m ~ 900m に生息しており, 座間味の例もその範囲に入る .

座間味島での採取地は, 集落から少し離れた山岳の拝所付近であり, 最近道が繋がったが現



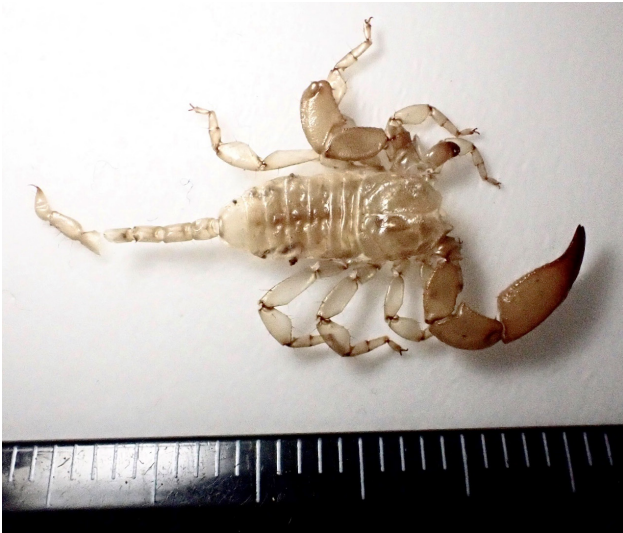


図6. 座間味島から得られたヤエヤマサソリ脱皮殻。RUMF-ZA-01067.

Fig. 6. Exuvia of *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775) from Zamami-jima Island. RUMF-ZA-01067.



図7. 発見時のヤエヤマサソリ生体及び周辺環境。

Fig. 7. Live *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775) and its habitat.

在も人が多く入り込む場所ではなく、ペットとして飼育されていた個体が逃げ出した、若しくは遺棄されたとは考えにくい。

また、2004年に本種を目撃した現地在住の中村氏がその後発見出来ていない事や、今回採取地での約4時間の調査で1個体だけの発見であったことから、座間味島での個体数は非常に少ないと言える。但し今回の調査にて本種のものと思われる脱皮殻が10個体程発見されたことにより複数個体が存在する可能性も高い。

なお、座間味島が所属する慶良間諸島は慶良間諸島国立公園に指定されている。今回ヤエヤマサソリの調査にあたって環境省慶良間自然保護官事務所に断りを入れ採取にあたった。本種が発見された場所は特別保護地区ではないが国立公園内である為採取は最低限にすべきであ

表2. 数島におけるヤエヤマサソリの発見場所から海までの距離。

Table 2. Distance from the discovery place of specimens of *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775) to the nearest sea coast on several islands in Japan.

島名 Island		文献 Reference
座間味島 Zamami-jima Island	約270 m (埋め立て 地完成前約250m) Ca. 270 m (ca. 250 m before land reclamation)	本報告
宮古島 Miyako-jima Island	約400 m Ca. 400 m	Kawai (2021)
伊良部島 Irabu-jima Island	約270 m Ca. 270m	河合(2020a)
伊良部島 Irabu-jima Island	約380 m Ca. 380 m	Kawai (2021)
伊良部島 Irabu-jima Island	約730 m Ca. 730 m	Kawai (2021)
下地島(宮古島市) Shimoji-shima Island	数m A few meters	河合(2020a)
来間島 Kurima-jima Island	約160 m Ca. 160 m	Kawai (2021)
石垣島 Ishigaki-jima Island	数m Ca. A few meters	河合(未発表)
波照間島 Hateruma-jima Island	約110 m Ca. 110 m	河合(2020b)
与那国島 Yonaguni-jima Island	約900 m Ca. 900 m	河合(2020a)

る。今回の調査結果が示す通り個体数は多くない為、不必要な乱獲は避けたい。

### 謝辞

座間味島にてご案内を頂きました中村恵太氏、そしてご協力頂きました島民の方々並びに環境省慶良間自然保護官に感謝の意を表します。

### 引用文献

- 千木良芳範・田中聡, 2004. 小浜島で確認された蛛形類, 唇脚類および倍脚類について. 沖縄県立博物館(編)小浜島総合調査報告書. Pp. 13–19, 沖縄県立博物館, 沖縄.
- Fet, V., W.D. Sissom, G. Lowe & M.E. Braunwalder, 2000. Catalog of the Scorpions of the World (1758–1998). The New York Entomological Society, New York.
- 唐沢重考・川添和英, 2005. 琉球列島におけるヤエヤマサソリ *Liocheles australasiae* (Fabricius) の分布 — 黒島からの初記録 —. Edaphologia, 78: 15–17.
- 河合上総, 2020a. ヤエヤマサソリ *Liocheles australasiae* (Fabricius 1775) の分布域 — 伊良部島, 下地島(宮古島市), 与那国島からの初記録 —. Fauna Ryukyuna, 54: 7–9.
- 河合上総, 2020b. ヤエヤマサソリとマダラサソ



図8. 座間味島でのヤエヤマサソリ発見場所.

Fig. 8. Habitat of *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775), Zamami-jima Island.

リ(クモ綱サソリ目)の波照間島からの記録.  
Fauna Ryukyuna, 56: 9–11.

Kawai, K., 2021. Habitat characteristics of two scorpion species, *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775) and *Isometrus maculatus* (De Geer, 1778) in Miyako Islands, Japan. *Euscorpius*, (331): 1–17.

Koch, L.E., 1977. The taxonomy, geographic distribution and evolutionary radiation of Australo-Papuan scorpions. *Records of the Western Australian Museum*, 5: 83–367.

小西健二, 1965. 琉球列島(南西諸島)の構造区分. *地質学雑誌*, 71: 437–457.

Kovářik F., K.B. Ranawana, V.S. Jayarathne, S. Karunaratna & A.Ullrich, 2018. Scorpions of Sri Lanka (Arachnida, Scorpiones). Part II. Family Hormuridae. *Euscorpius*, (258): 1–5.

木崎甲子郎, 1985. 琉球弧の地質誌. 沖縄タイムス社, 沖縄.

Monod, L. & E.S. Volschenk, 2004. *Liocheles litodactylus* (Scorpiones: Liochelidae): an unusual new *Liocheles* species from the Australian wet tropics (Queensland). *Memoirs of the Queensland Museum*, 49(2): 675–690.

下謝名松栄, 1972. 琉球列島の蛛形類の分布. 遺

伝, 26: 100–106.

下謝名松栄, 2015. クモ綱 Arachnida・サソリ目 Scorpionida. 青木淳一(編著), 日本産土壌動物—分類のための図解検索 第二版. Pp. 99–102, 東海大学出版会, 神奈川.

高島春雄, 1942. 東亞産全蠍類脚鬚類の調査(其の五). *Acta Arachnologica*, 7: 24–30.

田中聡, 2012. 竹富島産ヤエヤマサソリの繁殖について. 沖縄県立博物館・美術館博物館班(編)竹富島総合調査報告書. Pp. 7–12, 沖縄県立博物館・美術館, 沖縄.

山階芳麿, 1955. 琉球列島における鳥類分布の境界線. *日本生物地理学会会報* 16–19: 371–375.

Yamazaki, K. & T. Makioka, 2005. Parthenogenesis through five generations in the scorpion *Liocheles australasiae* (Fabricius 1775) (Scorpiones, Ischnuridae). *The Journal of Arachnology*, 33(3): 852–856.

Di, Z.-Y. Di, Z.-J. Cao, Y.-L. Wu, L. Zhu, H. Liu & W.-X. Li, 2013. The Scorpions of Hainan Island, China (Arachnida: Scorpiones). *Euscorpius — Occasional Publications in Scorpology*, 153: 1–22.

### Record of *Liocheles australasiae* (Fabricius, 1775) (Scorpiones: Hormuridae) from Zamami-jima Island, central Ryukyu Islands

#### Kawai Kazusa

The Japan Scorpion Laboratory, 4-7, Motomachi, Gifu-shi, Gifu-ken 500-8185, Japan. E-mail: [kawai.k.scorpion@gmail.com](mailto:kawai.k.scorpion@gmail.com)

**Abstract.** The confirmed distribution of *Liocheles australasiae* (Fabricius 1775)(Scorpiones: Hormuridae) in Japan has been limited to the southern Ryukyus, but this study confirmed that *L. australasiae* inhabits Zamami-jima Island, central Ryukyus, Japan. A live individual and an exuvia collected were both female.

投稿日: 2020年9月17日

受理日: 2021年5月27日

発行日: 2021年6月9日